



● Human Centered Design Organization

H

Human
人間

C

Centered
中心

D

Design
設計

人を優先したモノ・コトづくりを推進します

特定非営利活動法人

人間中心設計推進機構

<http://www.hcdnet.org>

人間中心設計推進機構 (HCD-Net) について

理事長からのご挨拶

人間中心設計推進機構は、機器やシステム、サービスの開発に「人間中心設計 (HCD, Human Centered Design)」や「ユーザーエクスペリエンスデザイン (UXD, User Experience Design)」を導入し定着させることで、社会に貢献し、経済の活性化に寄与することを目的とする特定非営利活動法人(NPO) です。

HCD/UXDを開発現場に導入することで、ユーザーの実態を的確に把握し、開発関係者が共有できる要求事項としてまとめ、評価と連動した設計によって、ユーザーが満足できる品質の達成が可能になります。2005年の設立以来HCD-Netでは、HCD/UXDの専門領域を確立するために概念の整理、手法の研究、ディスカッションを重ねてきました。またこの領域に関心を持つ方々と最新の情報を共有し、ワークショップ等、年間100近いイベントに延べ3,000名を超える参加者を迎え、さらなる専門性の構築を目指してまいりました。

一方に利益優先、コスト優先、納期優先といった開発現場の実情がある中で、HCD/UXDの視点による取り組みの不足によって起きるさまざまな問題があとを絶ちません。これに対してHCD-Netとしては、公的な検証活動に積極的に関与したり、開発当事者の方々との議論を通じてHCD/UXDへの理解を深める活動も重要と考えます。また情報セキュリティやクラウド、IoTといった領域で技術の論議が猛スピードで進む中、そこにHCD/UXDの知見を導入する機会を逸するケースも多く、啓発力の必要を痛切に感じています。

次の10年へ向けてHCD-Netでは、ビジネスを軸とした議論を通じて人間中心設計の効果を理解いただけるよう、各ステークホルダーに向けた説明の機会を増やしたいと考えます。またユーザビリティの視点を基本に置きつつ、同時に感性的魅力を創造する活動にも挑んでいきます。こうした専門領域の取り組みで獲得した知見やノウハウをさらに普及させるために、モノ・コト作りやサービス設計の領域で重要な責務を担いながら、これまでHCD/UXDに関心のなかった方々にも、その有用性を伝えていきたい——この決意を新たにHCD-Netの運営に携わってまいります。

今後とも、会員の皆様とともに将来に向けた人間中心設計の潮流作りを進めてまいりたい所存です。また全てのビジネス領域の皆様にも、本機構の主旨へのご理解、ご参加をいただけるよう、心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構
理事長 鱗原 晴彦

HCDの課題

実践できる専門家は まだわずか

HCDとはHuman Centered Designの略で「人間中心設計」を意味します。学界ではヒューマンインタフェース、人間工学、デザイン、認知科学などの各分野において、HCDに関わる専門的研究などの活動が進んでいます。しかし、日本の産業界でHCDを実践できる専門家はまだ少数です。そのためほとんどの商品やシステムは、HCDの専門家がたずさわることなく世の中に送り出され、わかりにくい、使いにくい、使えない商品やシステムが世の中にあふれることになっています。

モノの進化とともに浮上した HCDの問題

ここでいう「モノ」とは、ソフトウェアやサービスを含む、機器・システムの全体を指します。昔のモノの多くは、HCDが問題になることはありませんでした。しかしモノは常に変化しています。新しい技術による高度で複雑なモノは、従来の考え方だけでは、ユーザーにとっての使いやすさやサービスへの欲求を十分に満たせなくなってしまいます。



課題は産業界の啓発と 専門家の育成

今後の製品やサービス開発にHCDを導入していくためには、産業界での経営者への啓発活動、開発管理者や設計者の知識・能力向上教育、そしてより多くのHCD専門家を育てるための教育活動が重要です。

NPO法人としてのHCD-Netの役割

公の立場で 産・官・学と連携し、 新たな社会形成を推進

学界、産業界の枠組みや行政の縦割り構造のため、HCDの視点が抜け落ちてしまったり、ユーザーの柔軟性に頼ってしまうことがあります。こうした部分を補完し、HCDを意識したモノ・コトづくりを実現するために、HCD-Netのような公益団体が、産業(産)、行政(官)、学界(学)を横断的につないでいく大きな役割を担っています。

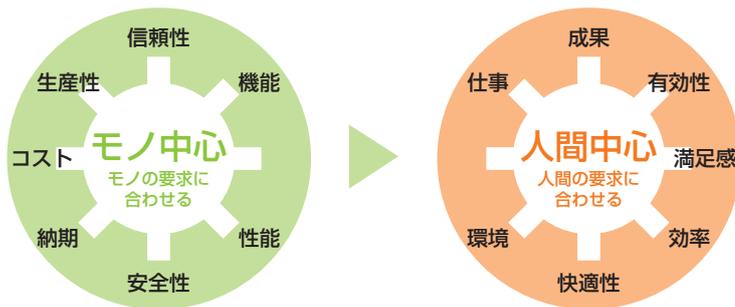


NPO 法人である HCD-Net は、20 年近く HCD にたずさわってきた専門家の活動をベースに、産・官・学を横断的につなぐ役割を担っています。HCD-Net の活動は、ISO 9241-210 のプロセス規格に基づいています。

HCDとは

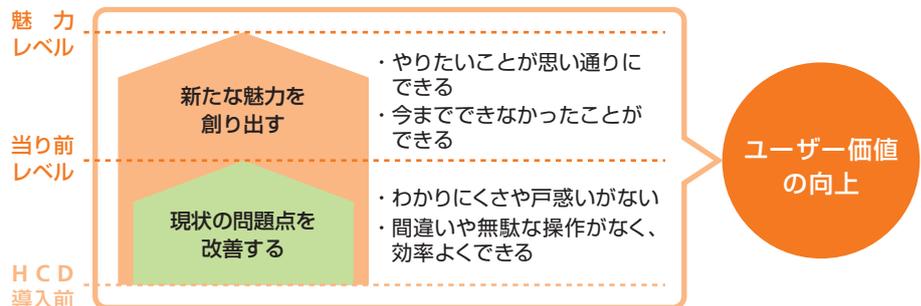
モノ中心から、
使う人間を中心にした
モノ作りへ

これからはモノだけでなく、それを使う人間の要求に応えるために技術を生かさなければなりません。HCDでは「人間」を中心にして、人間の要求に合わせて優先して設計します。



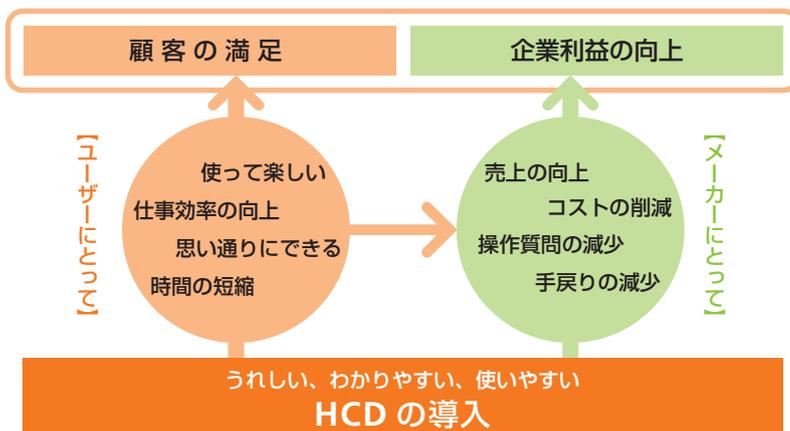
問題点の改善から、
新たな魅力の創造まで

HCDがめざすのは、ユーザエクスペリエンス (以下、UX) と使いやすさ、ユーザー価値の向上です。これらは、単に現状の問題点を改善することではありません。より積極的に、人間の欲求に応える新たな魅力や体験の創造をめざします。



「手戻り」を減らし、
顧客満足と企業利益を
同時に達成

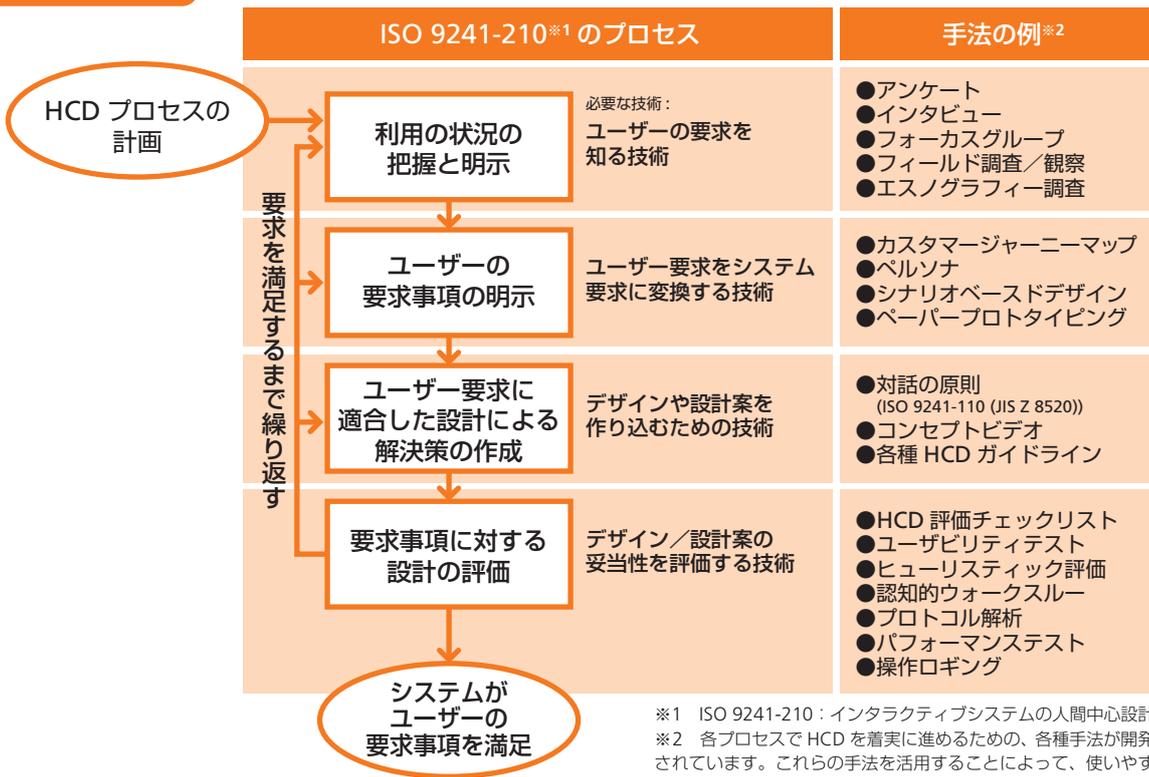
HCDの導入によって、ユーザーはモノやサービスをよりスムーズに、楽しく使うことができるようになります。メーカーにとっては、顧客からの操作に関する質問や「手戻り」が減り、コスト削減と顧客満足 (CS) を同時に達成することができます。



HCDのプロセスと手法

使う人の要求に応えるために、
設計と評価を繰り返す

HCDの進め方の基本は、製品の構想段階から対象ユーザーとその要求を明確にして、要求に合ったものを設計し、満足度合いを評価することです。ユーザーの要求が満たされるまで、これを繰り返します。



※1 ISO 9241-210：インタラクティブシステムの人間中心設計
 ※2 各プロセスでHCDを着実に進めるための、各種手法が開発されています。これらの手法を活用することによって、使いやすさやユーザー価値を向上させることができます。

現場観察で問題点を見つける

使いやすさやユーザー価値は利用状況によって変化します。人により、時により、場所により、目的により答は変わります。これらを向上させるには、対象とするユーザーの欲求や行動を知ることが出発点となります。

現場では、ユーザーを中心に、その周りでどんなことが起きているかを観察し、分析します。実際の利用現場には多くのヒントが隠されています。

多様な人材チームで進める

HCD活動はHCDの専門家だけでなく、製品仕様をまとめる設計者やデザイナー、市場導入戦略を牽引するマーケティングなど、多様な人材が関わりながら推進することが求められます。

メール作成中に、電話がかかってきた！

利用状況

メール

電話

ユーザーとその周りで起きること

- ・この電話に出るべきか、出なくてよいのか？
- ・誰からの電話か？
- ・相手によっては出たいが、相手によっては出たくない。
- ・出るにはどうすればいいか、出ない時はどうすればいいか？
- ・作成中のメールはどうなってしまうのだろうか？
- ・どうすれば、あとでメールの作成を再開できるのかな？
- ・早くしないと電話が切れてしまう、早く対処しなければ。

HCD-Netのめざす社会

多くの人々が便利に快適に暮らせる社会

HCD-Netは、HCDやユーザエクスペリエンスデザイン(以下、UXD)に関する学際的な知識を集め、産学を超えた人間尊重の英知を束ね、HCD/UXD導入に関する様々な知識や方法を適切に提供することで、多くの人々が便利に快適に暮らせる社会づくりに貢献します。あわせて経済の発展への寄与と、豊かでストレスのない実りある社会の実現をめざします。

HCD-Netの5つの活動領域

5事業部が連携して、HCD/UXD活動を推進

HCD/UXDに関する研究活動

- HCD/UXDを採求する調査・研究事業の実施
- HCD/UXDをシステム開発に導入する際の効率性や利用品質をさらに高める研究
- HCD/UXDに関わる研究発表の機会の提供
- 機関誌(論文誌)の刊行など



HCD/UXDに関する教育活動

- HCD/UXDの知識・経験・実践に関する講演会、セミナー、ワークショップの開催
- HCD/UXDの学習に適した教科書・参考書の刊行
- HCD/UXDの実践に必要な知識体系の構築・整理など



HCD/UXDの広報社会化活動

- HCD/UXDの普及・啓発事業
- 行政や産業界に向けたフォーラム、シンポジウムの開催
- ユーザビリティの向上を考える人材のネットワーク形成事業
- HCD/UXDに優れた商品を広く一般消費者に広報する活動
- 年間アワード審査発表など



- 調査研究や商品・システム開発における人間中心設計プロセスを実践できる専門資格の認定
- HCD/UXDに優れた商品・ウェブ等の認定、検証活動

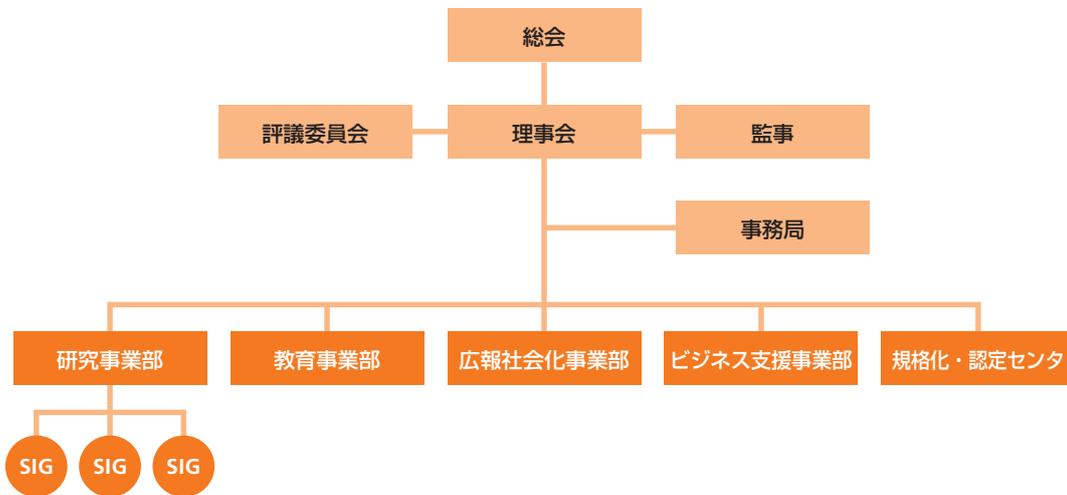
HCD/UXDに関する規格化・認定活動

- HCD/UXDに関するツールや手法の収集・開発
- 公共性の強い社会基盤システムのHCD/UXDの検討、設計活動
- HCD/UXDに優れた商品・サービスの設計・開発支援
- HCD/UXDに関する情報収集並びに情報提供
- 全産業にわたる商品・サービスの評価・分析支援など

HCD/UXDのビジネス支援活動

組織

運営組織



会員の全体像



会員の構成

HCD/UXDのノウハウを必要とする人

- システムエンジニア、プログラマー
- ウェブデザイナー
- ユーザビリティエンジニア、デザイナー
- 品質保証担当者
- ユーザインタフェースデザイナー
- インタラクションデザイナー
- 情報デザイナー (IA)
- テクニカルライター
- 商品企画、製品設計、製造、販売などの開発関係者
- HCD/UXD に関連する教育者・研究者
- HCD/UXD の重要性を理解し開発に導入している方々
- および、これらの専門性を育成したいと考えている方々

HCD/UXDを理解したい人

- エンジニア、システムエンジニア、プログラマー
- プランナー
- グラフィックデザイナー
- プロダクトデザイナー
- 流通事業者/マーケットター
- サービス事業者
- 行政システム担当者
- 行政サービス担当者
- ユーザーとの関わりを大切にしたいと考えている方々
- 経営者

入会のおすすめ

1. 当機構の活動を通じ、HCD や UXD に関する最先端情報を収集し、実践に活用できます。
 - HCD スキルや UXD スキルを、体系立てて習得できます。
 - HCD や UXD のビジネス導入ケースを学ぶ場を得られます。
 - HCD や UXD の有識者との情報交換の場（フォーラム、サロン、研究会）に参加できます。
 - 会員限定のセミナー、イベントに参加できます。
 - 定期機関誌ほか当機構の成果物を入手できます。
2. 当機構の諸活動には、会員価格にて参加できます。
 - 毎年開催されるフォーラム、シンポジウムをはじめ、各種セミナーやイベントの参加費には会員価格が設定されており、非会員価格と比べて割安となっています。

会員種別と特典

会費

- 一般正会員 12,000 円/年
- 一般学生会員 4,000 円/年
- 賛助会員 80,000 円/年

入会金 不要

会員特典

- 一般会員（正会員・学生会員）：
HCD-Net 主催の講習会・セミナー・懇親会等に会員価格で参加可能
HCD-Net 機関誌（論文誌）へ論文投稿可能
- 賛助会員：
一般正会員2名分の参加資格（申し込み事業所単位）
賛助会員イベントへの支援（プライベートセミナーなど）

入会をご希望の方は、「入会予約申込書」にご記入の上、下記の「お問い合わせ先」までお送り下さい。またはウェブサイトからもお申し込みいただけます（http://www.hcdnet.org/apply/apply_form.php）。

論文の投稿は、常時受け付けています。

- 投稿規程（http://www.hcdnet.org/pdf/submission_rules.pdf）
- 投稿手続（http://www.hcdnet.org/pdf/submission_guideline.pdf）

お問い合わせ先

特定非営利活動法人（NPO 法人）人間中心設計推進機構 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-10-3 リ・ノウ麹町 1F

特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構

phone: 090-8170-2027

e-mail: secretariat@hcdnet.org